

西濃圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
2	変更	医療法人徳洲会 大垣徳洲会病院	大垣市	【現状、特徴】 整形外科、脳神経外科、循環器内科は充実している。 二次までの救急受入れが増加している。 子育て看護師を支援している。 【課題】 看護職員夜間配置加算16対1、12対1の施設基準を取得することで手厚い看護を目指す。 内科系の医師不足。 医師の負担軽減を鑑み複数主治医制を目指す。	二次救急の更なる充実化 回復リハビリテーション領域の充実化 在宅業務の充実化(サ高住、有料老人ホーム、訪問介護事業)						○	二次救急の受け入れを更に充実する。 在宅事業の充実化を目指す。 災害時に診療が継続可能な環境と体制作りを構築中	
3	未回答	医療法人社団正 和会 馬淵病院	大垣市		未回答								
4	変更	大垣市民病院	大垣市	【現状、特徴】 西濃医療圏の中核基幹病院として、高度で専門的な医療施設や医師・歯科医師臨床研修病院の環境を整備している。二次医療圏唯一の救命救急センターの運用や、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、岐阜県地域周産期母子医療センター、小児救急医療拠点病院等の指定等を受け、質の高い医療を提供している。 【課題】 医師を安定的に確保するため、地方都市にある当院が研修医に選ばれる病院になり、いかに医師に定着してもらえるかが課題です。また、老朽化する施設に対し求められる医療機能に応じた計画的な整備が必要です。	西濃医療圏の高度急性期・急性期医療、特に救命救急、災害拠点、がん拠点、周産期、小児救急等の中心的役割を担います。		実施 済み					令和4年11月1日に急性期機能病床を86床削減した。	
19	未回答	奥田整形外科	大垣市		未回答								
28	新規	山中ジェネラルク リニック	安八町	【現状、特徴】 隣接されている特養の利用者や地域の方の急性期、慢性期、回復期分野の病床機能に重きを置いている。高度急性期患者については連携病院へ紹介し、ターミナルケアやリハビリを目的とした入院等も行っている。 【課題】 病床稼働率の不安定性あり。また、医師や看護師等の人員確保が課題である。	地域唯一の有床診療所、救急対応診療所として現状維持に努めていきたい。そのためには、課題である医師・看護師等の人員確保を克服していき病床稼働率を安定化させたい。また、連携病院との連携を今後も行っていきたい。						○	当院の役割を明確にして連携病院と入院調整を行っている。また、専門医を非常勤であるが配置し、5疾病に対応できるようにしている。医師・看護師等の人員確保するための対策を継続して行っている。	
32	未回答	まつばら眼科	池田町		未回答								